

QE for Display[RX] V3.3.0 スタンドアロン版

リリースノート

この度は、ルネサス ソリューション・ツールキットー各種アプリケーション対応開発支援ツール QE (Quick and Effective Tool Solution) 製品である、QE for Display[RX] V3.3.0 をご使用いただきまして誠にありがとうございます。

このリリースノートでは、本製品のインストール方法および、制限事項等を記載しております。ご使用前に、必ずお読みくださいますようお願い申し上げます。

1. QE for Display[RX] V3.3.0 について	2
1.1 製品の概要	2
1.2 新機能	2
1.2.1 スタンドアロン版対応	2
1.3 動作環境	2
1.4 対応マイコン	2
1.5 対応ソフトウェア	2
1.6 シリアル接続時の対応 LCD コントローラ	3
1.7 対応評価ボード	3
2. インストール／アンインストールについて	4
2.1 本製品のインストール方法	4
2.2 本製品のアップデート方法	4
2.3 本製品のアンインストール方法	4
3. 注意事項／制限事項について	5
3.1 使用上の注意点	5
3.1.1 プラグイン版からスタンドアロン版へのデータ移行方法	5
3.1.2 PLLCLK とパネルクロック周波数の設定について	5
3.1.3 Aeropoint GUI 使用時の注意点 (ライブラリの設定)	5
3.1.4 PC モニターの表示設定の注意点	5
3.1.5 LCD ワークフロー (QE) ビューの注意点	6
3.1.6 スタンドアロン版利用時のポーレート設定の注意点	6
3.1.7 日本語 OS における GUI 表示についての注意点	7
3.1.8 GUI 描画ツールに emWin を使う際の注意点	7
3.1.9 変更をリアルタイムでレジスタへ設定を使う際の注意点	7
3.2 機能制限	8
3.2.1 r_sci_rx FIT モジュールの ASYNC mode RX queue buffer size setting の制限	8
改訂記録	10

1. QE for Display[RX] V3.3.0 について

1.1 製品の概要

QE for Display[RX] V3.3.0 はスタンドアロン版で、CS+やサードパーティ製 IDE 用の LCD 表示プロジェクトを簡単に作成、調整できます。

以下の組み込みシステム開発において、本製品を使用することによりディスプレイ接続の初期調整(ディスプレイタイミング調整、画質調整)から GUI の作成まで簡単に行え、開発期間の短縮が実現できます。

- RX ファミリにおける Graphic LCD Controller(GLCDC)の画像表示機能と、emWin GUI ソフトウェアパッケージおよび Aeropoint GUI for RX を使った、LCD への GUI 表示。
- RX ファミリにおけるシリアル通信と emWin GUI ソフトウェアパッケージを使った、シリアル接続 LCD への GUI 表示。

1.2 新機能

1.2.1 スタンドアロン版対応

QE for Display[RX] V3.3.0 は、CS+や IAR EW for Renesas RX など簡単に LCD 表示プロジェクトの作成、調整を行うことができます。シリアル通信で LCD の表示をリアルタイムに調整することができます。

1.3 動作環境

- Windows 10、Windows 11
- CS+ for CC V8.12.00 (またはそれ以降)
- IAR EW for Renesas RX V5.10.1 (またはそれ以降)
- RX Smart Configurator V2.22.0 (またはそれ以降)

1.4 対応マイコン

- GLCDC 機能
RX ファミリ
 - RX600 シリーズ RX65N*、RX651*、RX66N
(* ROM 容量: 1.5MB ~ 2MB のみ対応)
 - RX700 シリーズ RX72M*、RX72N
(* 100 ピンは未対応)
- シリアル接続機能
全 RX ファミリ*
(*スマート・コンフィグレータ対応マイコンのみ)

1.5 対応ソフトウェア

- RX ファミリ用 Firmware Integration Technology (FIT)
 - グラフィック LCD コントローラモジュール: r_glcdc_rx V1.60 (またはそれ以降)
 - QE for Display モジュール: r_qe_display_rx V1.00 (またはそれ以降)
 - emWin v6.34 モジュール: r_emwin_rx V1.10 (V6.34.a.1.10) (またはそれ以降)
 - Aeropoint モジュール: r_aeropoint_rx V1.00 (またはそれ以降)

1.6 シリアル接続時の対応 LCD コントローラ

- ・ ST7715
- ・ ILI9341

1.7 対応評価ボード

- ・ GLCDC 機能
 - ・ Renesas Starter Kit+ for RX65N-2MB
 - ・ Renesas Starter Kit+ for RX72N
 - ・ RX65N Envision Kit
 - ・ RX72N Envision Kit
- ・ シリアル接続機能
 - ・ Renesas Starter Kit for RX130-512KB
 - ・ Renesas Starter Kit for RX140
 - ・ Renesas Starter Kit for RX231
 - ・ Renesas Solution Starter Kit for RX23W
 - ・ Renesas Starter Kit+ for RX64M
 - ・ Renesas Starter Kit for RX660
 - ・ Renesas Starter Kit+ for RX671
 - ・ Renesas Starter Kit+ for RX71M
 - ・ Target Board for RX130
 - ・ Target Board for RX231
 - ・ Target Board for RX23W
 - ・ Target Board for RX23W module
 - ・ Target Board for RX65N
 - ・ Target Board for RX660
 - ・ Target Board for RX671

評価ボードに接続する LCD は以下を使用します。

- ・ Renesas Starter Kit / Renesas Solution Starter Kit: OKAYA – RH128128T-1X44WN-B2 (Starter Kit 同梱のもの)
- ・ Target Board: Kuongshun Electronic – MSP2807 (OEM 品も使用可能)

2. インストール／アンインストールについて

2.1 本製品のインストール方法

本製品をインストールするには、下記のいずれかの手順で行います。

1. パソコンの任意の場所に zip ファイルを解凍します。
注意:OS のプログラムフォルダー(C:\Program Files)の下には置かないでください。
2. ¥QE-Display¥eclipse¥qe-display.exe” をダブルクリックして本製品を起動します。
3. 本製品の初回起動時には、使用許諾のダイアログが表示されます。ライセンスの内容を確認し、「同意する」または「同意しない」を選択してください。

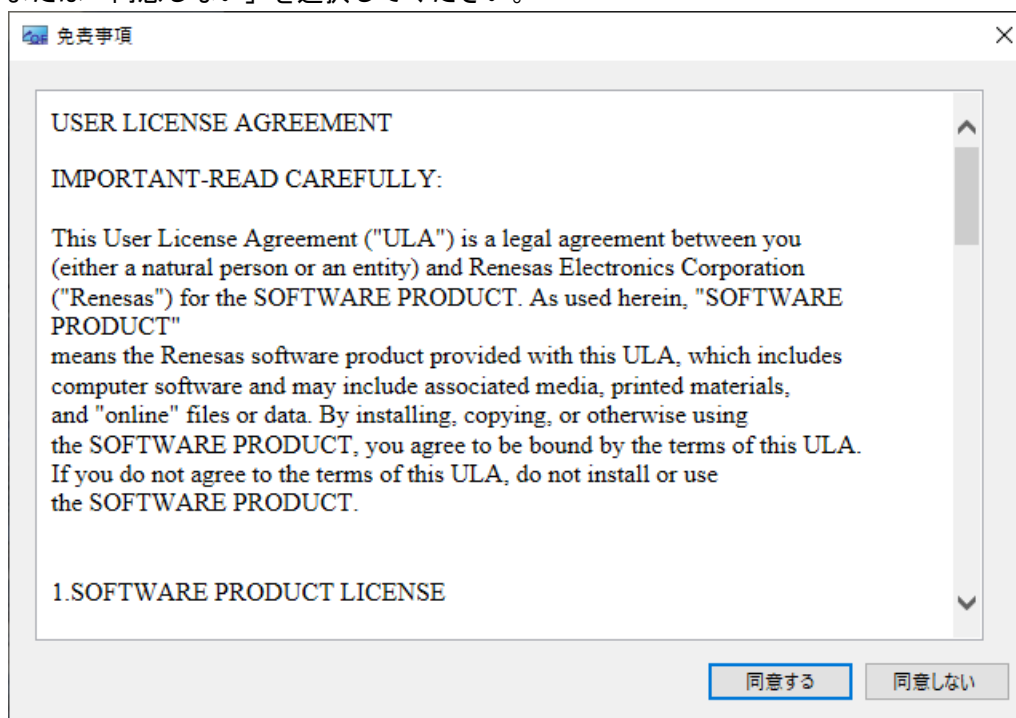


図 2-1 使用許諾契約書のダイアログ

4. 上記の手順で「同意する」を選択した場合、本製品は起動され使用することができます。
上記の手順で「同意しない」を選択した場合、本製品は起動されず使用することができません。

2.2 本製品のアップデート方法

本製品を既にインストールしている場合には、インストール方法 2.1 と同じ手順でアップデートできません。

2.3 本製品のアンインストール方法

zip ファイルを解凍したフォルダを削除してください。

3. 注意事項／制限事項について

3.1 使用上の注意点

3.1.1 プラグイン版からスタンドアロン版へのデータ移行方法

設定データをプラグイン版から移行するには、下記のプラグイン版プロジェクトの保管場所からスタンドアロン版の保管場所へと設定データをコピーしてください。

プラグイン版：

- 旧版の設定データの保管場所

<ワークスペース>/metadata/.plugins/com.renesas.apltool.glcdc

- V2.0.0 以降の設定データの保管場所

<プロジェクト>/settings/.plugin/com.renesas.apltool.glcdc

スタンドアロン版

- 設定データの保管場所

<プロジェクト>/settings/.plugin/com.renesas.apltool.glcdc

3.1.2 PLLCLK とパネルクロック周波数の設定について

スタンドアロン版では、スマート・コンフィグレータの Clock ページの設定に従って[タイミング調整] ページの[PLL 回路周波数[MHz]]の値を入力する必要があります。また、プロンプトに従って[パネルクロック周波数[MHz]]の値を選択してください。

3.1.3 Aeropoint GUI 使用時の注意点（ライブラリの設定）

RX66N、RX72M、RX72N で RXv2 命令セットアーキテクチャを使用する場合は、リンクオプションに設定されているライブラリを以下のものに変更してください。

- ・ libcri_AeropointLite_RXv2_CCRX.lib
- ・ libcri_Atom_Multiplayer_RXv3_CCRX.lib

3.1.4 PC モニターの表示設定の注意点

お使いの PC で GUI テキストが下図のように重なったり遮られたりする場合は、以下の推奨設定に従って PC モニターの設定をおこなってください。

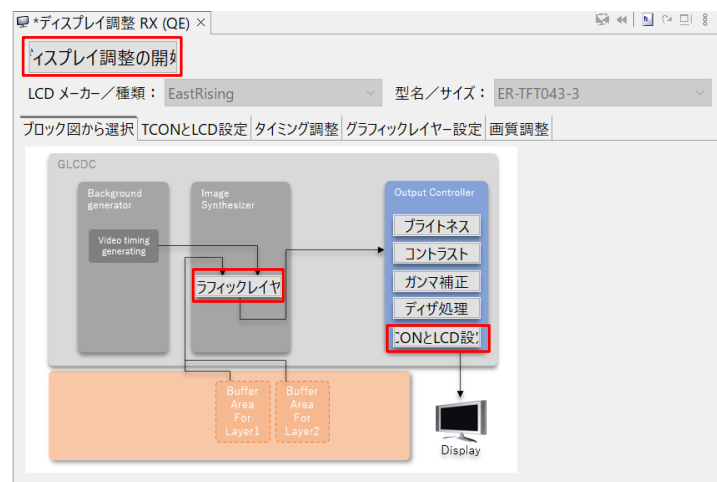


図 3-1 重なったり遮られたりした GUI テキスト

推奨モニター設定

- 表示スケール : 100%
- ディスプレイ解像度 : 1920 × 1080

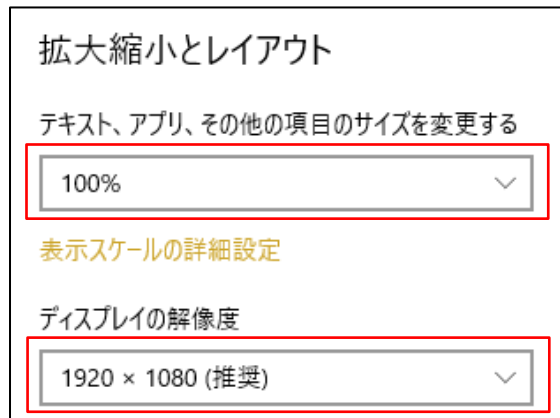


図 3-2 推奨モニター設定

3.1.5 LCD ワークフロー (QE) ビューの注意点

PC に WebView2 ランタイムがインストールされていない環境では、ワークフローを表示できません。

[対処方法]

Microsoft 社の Web ページから WebView2(x64 版)をインストールしてください。(FAQ:[3000670](#))

3.1.6 スタンドアロン版利用時のボーレート設定の注意点

Renesas Starter Kit, Renesas Envision Kit に搭載されている USB-to-serial IC (RL78G1C) の通信速度の制限により、これらの 2 種類の評価ボードを使ったプロジェクトを使用する際に、ボードの USB-to-serial リソースを利用する場合は、スタンドアロン版で設定するボーレートの最大通信速度は 115200 を超えることができません。

3.1.7 日本語 OS における GUI 表示についての注意点

日本語 OS において、“Show view”ダイアログや、“Console”ビューの一部の文字が英語で表示されます。

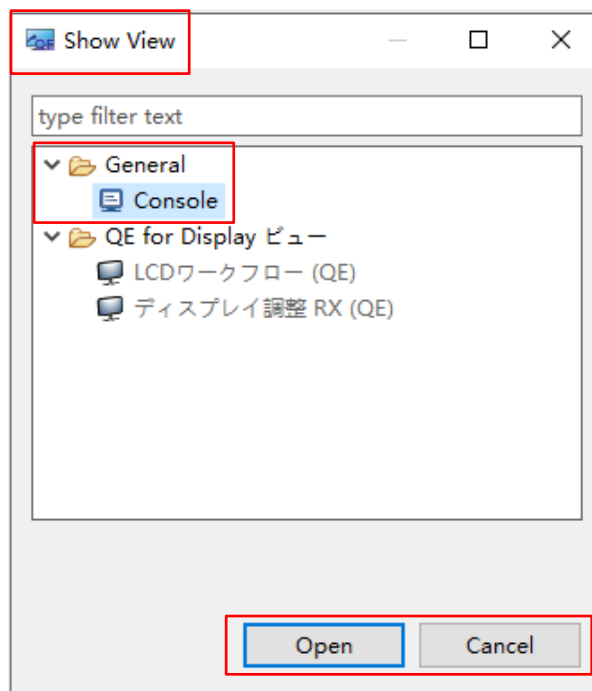


図 3-3 Show View ダイアログ

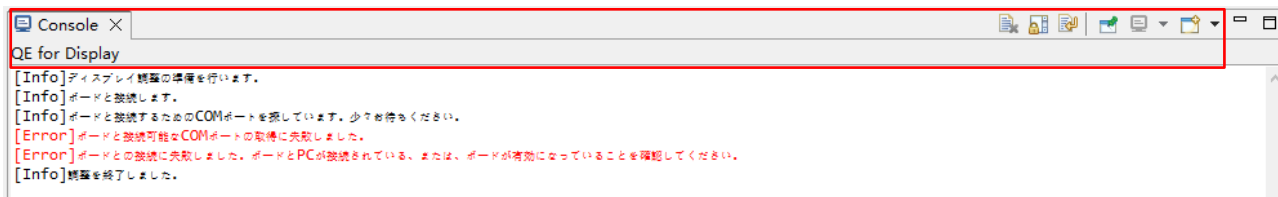


図 3-4 Console ビュー

3.1.8 GUI 描画ツールに emWin を使う際の注意点

GUI 描画ツールとして emWin を使用する場合、DTC はディスプレイ調整時の通信に対応していません。r_sci_rx FIT モジュールで DTC の設定を行わないでください。

3.1.9 変更をリアルタイムでレジスタへ設定を使う際の注意点

“ディスプレイ調整の開始”を実施した後、マウスフォーカスを“ディスプレイ調整 RX (QE)”ビューから移動しないでください。マウスフォーカスがビューに戻った際に、コマンド通信エラーメッセージや冗長なメッセージがコンソールビューに表示されます。これらのメッセージは無視して問題ありません。

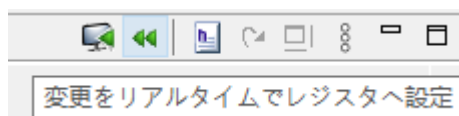


図 3-5 “変更をリアルタイムでレジスタへ設定”ボタン

```

Console X
QE for Display
[Info] ボードとの接続を切断しました。
[Info] 調整を終了しました。
[Error] ボードからのコマンド応答を取得することに失敗しました。
コマンド: Timing adjustment
[Info] ボードと再接続して、通信状態の復元を試みます。
[Error] ボードとの再接続に失敗しました。
[Error] 通信状態が異常です (応答なしです)。再度ボードと接続してください。
[Info] ボードとの接続を切断しました。

```

図 3-6 コマンド通信エラーメッセージの例

3.2 機能制限

QE for Display[RX] V3.3.0 では以下の制限事項があります。

3.2.1 r_sci_rx FIT モジュールの ASYNC mode RX queue buffer size setting の制限

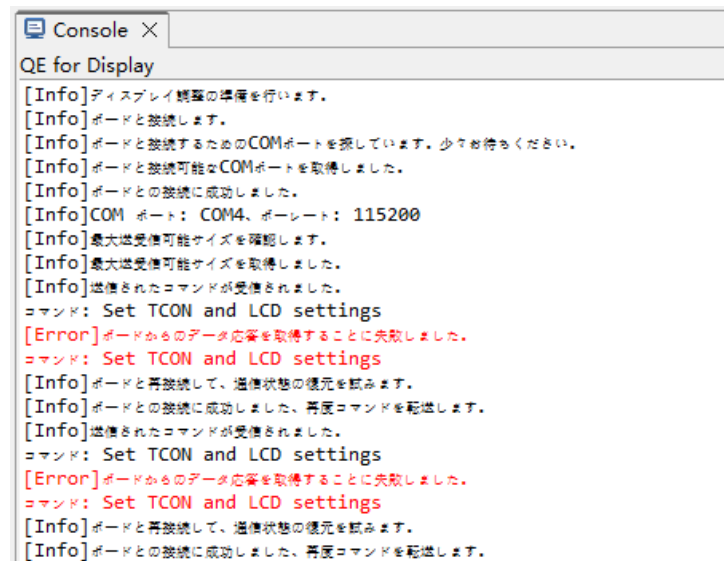
r_sci_rx FIT モジュールにおいて、"ASYNC mode RX queue buffer size for channel n " に以下の値は設定しないでください。

- 2, 3, 4, 6, 7, 8, 10, 14, 15, 32, 42, 63, 83, 94, 124, 187, 247

プロパティ	値
# ASYNC mode TX queue buffer size for channel 8	80
# ASYNC mode TX queue buffer size for channel 9	80
# ASYNC mode TX queue buffer size for channel 10	80
# ASYNC mode TX queue buffer size for channel 11	80
# ASYNC mode TX queue buffer size for channel 12	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 0	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 1	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 2	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 3	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 4	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 5	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 6	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 7	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 8	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 9	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 10	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 11	80
# ASYNC mode RX queue buffer size for channel 12	80
# Transmit end interrupt	Disable
# GROUPBLO (ERI, TEI) interrupt priority	3

図 3-7 ASYNC mode RX queue buffer size for channel n 設定

設定した場合、以下のようなメッセージがコンソールビューに表示され、メッセージ表示が止まらなくなる場合があります。



```
Console X
QE for Display
[Info]ディスプレイ調整の準備を行います。
[Info]ボードと接続します。
[Info]ボードと接続するためのCOMポートを探しています。少々お待ちください。
[Info]ボードと接続可能なCOMポートを取得しました。
[Info]ボードとの接続に成功しました。
[Info]COM ポート: COM4, ボーレート: 115200
[Info]最大受信可能サイズを確認します。
[Info]最大受信可能サイズを取得しました。
[Info]送信されたコマンドが受信されました。
コマンド: Set TCON and LCD settings
[Error]ボードからのデータ応答を取得することに失敗しました。
コマンド: Set TCON and LCD settings
[Info]ボードと再接続して、通信状態の復元を試みます。
[Info]ボードとの接続に成功しました。再度コマンドを送信します。
[Info]送信されたコマンドが受信されました。
コマンド: Set TCON and LCD settings
[Error]ボードからのデータ応答を取得することに失敗しました。
コマンド: Set TCON and LCD settings
[Info]ボードと再接続して、通信状態の復元を試みます。
[Info]ボードとの接続に成功しました。再度コマンドを送信します。
```

図 3-8 異常なメッセージの表示

[対処方法]

本現象が発生した場合は、「ディスプレイ調整の終了」をクリックして調整をやめてください。

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	Jul.01.24	-	新規作成

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策

CMOS製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。

2. 電源投入時の処置

電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSIの内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. 電源オフ時における入力信号

当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れしないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。

4. 未使用端子の処理

未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI周辺のノイズが印加され、LSI内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。

5. クロックについて

リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

6. 入力端子の印加波形

入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS製品の入力がノイズなどに起因して、 $V_{IL}(\text{Max.})$ から $V_{IH}(\text{Min.})$ までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、 $V_{IL}(\text{Max.})$ から $V_{IH}(\text{Min.})$ までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。

7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

8. 製品間の相違について

型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違えば、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含まれます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
 2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
 3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
 4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
 5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
 6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通管制（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等
当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じて、当社は一切その責任を負いません。
 7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア/ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限りません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因したまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア/ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
 8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
 9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
 10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
 11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
 12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします。
 13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
 14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。
- 注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。
- 注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレシア）

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。